

あなたとJAをおすすめ情報誌

なかしべつ

2003

1月

No.337



JA NAKASHIBETSU

中標津町農業協同組合

代表理事 組合長

副組合長 理事

営農委員 長理事

管理購買委員 長理事

生産委員 長理事

理事

理事

理事

理事

理事

理事

理事

理事

高橋 中村 上村 藤井 中林 川村 鈴村 篠永 瀧場 渡邊 土上 瀧井 川

勝哲 重美 忠清 祥直 慎善 昭義 優

義雄 光夫 雄身 幹文 行男 明

義雄 光夫 雄身 幹文 行男 明

寒中お見舞い申し上げます

寒さ厳しき折柄一層ご自愛のほどお祈り申し上げます
本年も何卒よろしくお願ひ致します。

平成十五年一月



新年を迎えて



中標津町農業協同組合

代表理事組合長 高橋 勝義

平成十五年の新春を迎え組合員の皆さまにとって、希望に満ちた年となりますようお祈り申し上げます。

J A中標津においては昨年十一月、現役参事の不幸が生じました。故人の生前中は組合員はもとより、関係者皆さまより格別なご厚情、ご愛顧をいただきました。ここに改めて厚くお礼を申し上げます。

故南出氏は、参事として卓越した手腕を発揮された立派な指導者でした。同氏を失ったことは、本組合にとって誠に大きな損失であると言わざるを得ませんが、J A中標津は全ての農家の期待を担っております。J A中標津には故南出氏が育てた幾多の人材を擁しており、故人がいつも気にかけていたJ A中標津が、今後ますます発展を続けられるであろうことを確信いたしております。

さて、昨年の経済はテロ事件で揺れた株式市場の平均株価低迷に始まり、不祥事、不良債権、不景気にあふれました。これに大なたを振るおうとした小泉改革路線ですが、大手銀行の問題は一向に解決せず、株価はついに八千円台に突入する事態となり、政府による不良債権の解決策は未だ見通しがつきません。

農業を取り巻く情勢についても雪印食品の食肉偽装問題により、食への信頼を損ない、産地の偽装や輸入農産物の残留農薬汚染。さらに無登録農薬を使用した販売物の流通発覚など、食の安全性に対して消費者に強く不信と不安を与えることになりましたが、同時にJ Aに対する信頼も大きくゆらいでしまいました。

J Aには食に対する社会的使命があります。食料の六割以上を輸入に依存している我が国では、決してその生産量を下げることは許されませんが、生命産業ともいえる農業において、市場原理や競争原理のみを優先してはならないという事を思い知らされました。

J A中標津を振り返ると、夏場から秋にかけて、二度にわたる台風の襲来や、不順な天候と多雨により乾草調整や畑作物の収穫に支障をきたし、作業機の稼働が長期化するなど、農作業に苦勞が絶えない年でした。

しかし、この天候不順の収穫時期のなか、でん原馬鈴しょにつきましては出荷班・馬鈴しょ振興会各位のご努力により、期間内の全量出荷を果たしました。五年目となる大根は、発芽時期の低温により抽苔が発生したものの、全体的には高品質な大根が生産され、前年を大きく上回る生産量実績となりました。ビートについては、平均反収は前年を下回りましたが、糖分では前年を上回りました。

馬鈴しょ原種農場運営については、原種の栽培管理などの徹底により、良品質な原種馬鈴しょを生産者に供給する事ができました。酪農については、十一月末までの累計乳量では前年比百四・〇％と推移しているものの、十二月上旬からは前年度実績に対し未達状況にあり、さらなる生産意欲の高揚と、飼養管理技術の向上に努めていただきたくお願い申し上げます。重点目標として推進していた乳質は、生菌数ランク一、体細胞数ランク一、ともに前年より二ポイントの向上がみられました。この事は組合員の皆さまの日々の努力の賜であり、深く

敬意を表する次第です。

昨年十一月に落成した総合交流拠点施設「クレエ」は、農村住民と地域住民が一体となって、交流を深める実践の場となるよう願ってやみません。皆さま多くのご利用をお待ちしております。

五周年を迎えるAコープあるる店につきましては、景気低迷の小売業界を尻目に堅調に売上を伸ばしておりますが、地域の生活物資の供給拠点として重要な使命を持つものであり、より地域に密着した店舗運営に努めたいと思います。

金融事業では定款変更などの準備も完了し、いよいよ本年度より国債窓販業務の取り扱いを開始することになりました。地域に根ざしたJ Aバンク、またJ A共済として、推進体制を整備・確立し、利用者に対するサービスの実を図ってまいりたいと思います。

農家戸数の減少や就業者の高齢化による担い手不足、ふん尿処理の適正化対応など、酪農を取り巻く状況は依然として厳しい状況にあります。食は永遠に命の基本であり、需要は無限であります。農業を守ることは生命を守ることに他なりません。

本年もこのかけがえのない農業を守り、発展させるために役職員全力を尽くす所存でございますので、組合員の皆さまにはより一層のご指導、ご鞭撻をお願いする次第であります。最後に、皆さまのご健勝とご多幸を祈念し、皆さまにとりまして本年が明るい年であり、更に実り豊かな秋を迎えることができますよう、心から念願して年頭のご挨拶と致します。

新年にあたり

北海道農業協同組合中央会

会長 宮田 勇



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

本年が希望に満ちた年となりますようお祈り申し上げます。

昨年の本道における農作物の作柄は、低温や日照不足、多雨の影響を受けましたが、豆類、水稲を除いて総体的に農作物は豊作となりました。しかし、玉葱、馬鈴しょ、米などは価格が低迷し、農家経済は厳しい状況となりました。

農業を取り巻く情勢は、平成十二年度の口蹄疫に続き、BSEの発生や、輸入農産物の残留農薬問題、無登録農薬の使用など食の安全性について問題視され、消費者は強い不安を抱いております。

JAGグループ北海道は一日も早く信頼回復が図られるよう全力で対処してまいりますとともに、食の安心・安全な農畜産物の産地づくりに取り組んでおります。

また、「WTO農業交渉問題」、

「米の政策改革問題」、「構造改革特区問題」など厳しい状況に直面しています。特に「WTO農業交渉問題」

について、三月にモダリティー（自由化の基準）が決められますが、日本が提案する農業の多面的機能などに配慮したモダリティーの確立に向けて、JAGグループは国内外に対して理解を深める運動を展開しております。さらに「農協の独占禁止法適用除外の見直し」の問題が提起されており、JAの独占禁止法の適用除外が撤廃されれば、現在、JAGグループで行なっている共同購入・共同販売をはじめ需給調整ができなくなり、事業者である農家、JA事業にも大きな影響を与えることから制度の見直しがなされないよう国、農水省に對して強く求めております。

さて、本年は三年に一度開催される第二十四回JA北海道大会の開催年であります。二十一世紀における北海道農業・JAが取り組む指針で

あり、北海道農業が日本の食料供給基地として農業の展開を図るため、食料自給率の向上と消費者への安全・良品質な農畜産物の供給を目指すとともに、JA経営では自己責任に基づく経営の健全化を図り、強靱な経営基盤を確立することが必要であります。

JAGグループ北海道は組合員、JA、地域住民の期待と信頼に応えるため全力を尽くす所存であります。

最後に、本年が豊穰の出来秋を迎えることができますよう心からご祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。

年頭のごあいさつ

北根室地区農業改良普及センター

所 長 長野 宏



平成十五年の新春をご家族お揃いで迎えられたことと心よりお喜び申し上げます。

昨年の降雪は比較的多かったものの、融雪は平年より早まり草地に対する施肥作業も早く進みました。五月は平年気温を上回り日照時間もあり、一番牧草の生育は平年より進み、収穫も平年より早く始まりました。

二番牧草については低温寡照の影響もあり、収穫は遅れて始まりました。一番・二番牧草とも生草収量は平年値を若干下回りましたが、乾物収量では上回りました。

主要生産物の牛乳の生産も、夏場に極端な暑さもなかったこともありですが、皆さんの努力によって十一月末現在の累計生乳実績は、前年対比一〇四割の結果で前年を上回って推移しております。

畑作物では、春先の天候にも恵まれ植え付け作業も順調に推移しました。夏場が低温に推移したこともあり、病害虫の発生は少なく経過しま

した。ばれいしよの収量は平年並かやや高いものの澱粉価はやや低く、てん菜については夏場の低温の影響で根部の肥大がやや悪く、収量は少なかつたが糖分は平年より高くなりました。また、だいこんは作付け面積が増加したなかで、低温の影響による生育遅れで苦労されましたが、全体的に平年並みの収量・品質の確保ができました。

また、昨年は畜産関係ではBSEに絡む肉類の偽装販売と、野菜関係では農薬問題など、食に関することで全国的に大きな問題が続き、生産者・消費者の方々に不安を抱く事が続きました。

最近、食生活の質も外食などの食サービス部門の依存度が高まる中で、食品提供過程も複雑に分業化され、最終的な製品の安全性はどうなのかわかりにくい状況にあります。食品に対する安全性・安心確保対策が強く求められてきています。農場から消費者までの過程の安全性や、

品質・表示に対し重要になります。家畜ふん尿関係については、平成十六年十一月から法律による管理基準が適用され、早急な対応が求められています。

また、一層の良質粗飼料確保による、自給率向上が重要になっていきます。厳しい経済環境変化の中で、農業所得を確保していく、コスト低減の取り組みも重要です。地域・組織の仲間と力を合わせながら作業の合理化・労働の軽減などの取り組みなどを進めることで、達成できる部分も大きいと思います。

普及センターも地域振興に関わる支援を、関係機関と連携を図りながら一層強めて参りたいと思っております。

今年が明るい年であり、ご家族皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

年頭 ごあいさつ

中標津町農協女性部
部長 横田 純子



ご家族お揃いで二〇〇三年の初春をお迎えのことと存じます。
今年、私達JA中標津女性部員にとって、創立五十周年という記念すべき年です。
昨年は、農村女性念願の農業農村交流施設「クレエ」の完成があり、これからの活動に、また一歩も二歩も夢が広がり、輪が大きくなる事と思います。
私達女性部員は「地産地消」を合言葉に活動し、今では道内での道産米消費も六〇割となりました。牛・肉・乳製品も同様になって欲しいのです。

何かと問題のある「食」と「農」を守る立場の私達、私達女性ができることから皆で行い、JAへの参画や家族の健康を守るといふ地道な活動を毎日の生活の中から実践して行きましょう。
「がんばれる幸せ」という言葉があります。働く時は思いきり働き、休む時は思い切りくつろぎ、うれしい時は思い切り笑い、毎日を全力で生き、人生を謳歌すること、それには健康が一番の基本です。その基の「食」、その「食」に携わることができる農村女性の役割は大きなものです。

「また今年一年、健康なスタートを切りましょう！」



新年の ごあいさつ

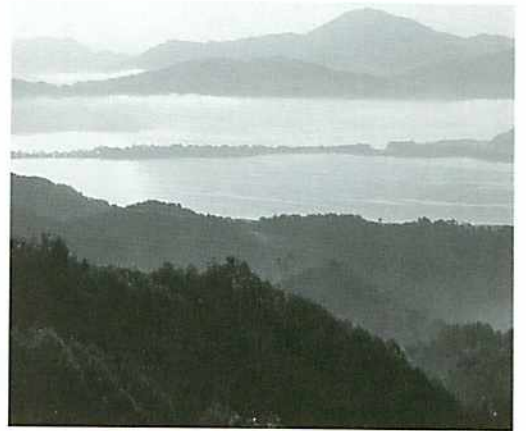
中標津町農協青年部
部長 佐々木大輔



昨年は、日本全体がワールドカップ一色のお祭りムードとなりました。今年はその勢いも手伝い、底打ちしている日本の経済も上向きとなってくれる様願いたいです。
さて、私達農業を営む者の昨年を振り返りますと、春先までの好天が農繁期になると一変し、牧草の収穫作業に大きな影響を与え、皆様大変なご苦労があったのではないかと思います。畑作についても収量など心配されましたが、平年作であったと聞き、まずは一安心だったのではないのでしょうか。
BSEの影響も市場取引価格がほ

ぼ発生前の水準まで戻り、明るい話題の一つではないかと思えます。
また昨年末には、二十四年ぶりに乳価の引き上げが決まり、我々生産者にはより一層の追い風になったことと思えます。
この様に多様に化する農業情勢を、私達青年部は常に敏感に察知し行動を起こす能力が求められると思います。そのためにも組織を最大限に活用し、多くを学び、積極的に自分の考えを発言できる様になつても、raithたいと思えます。その結果が、青年部の活性化につながっていくのではないのでしょうか。

私の任期も今年が最後となりますが、部員の協力なくして、青年部活動の成功はあり得ません。また今年一年、一緒に頑張りましょう。



平成十四年十一月二十九日から十二月四日までの日程で、地区別懇談会を実施し、皆さまの意見をお聞きしました。

説明した議題は、十月末の農協事業概況、国債窓口販売業務の取扱い開始、農業農村交流施設の落成、生乳毎日集荷者の対応、体細胞数規制措置についてです。

十月末の事業概況では、昨年の限度額引き上げにより出資金が、一億一千五百万円増加し、自己資本全体

販売事業では、補給金を含めた販売品取扱高で、乳代が前年より二億八千五百万円、農産物では大根一千八百万円、でん粉三千六百万円が増加し、個体販売では昨年のBSE発生後、価格の回復は見られるものの、

十月末と比較すると前年より一千七百万円の減少となっていますが、全体では三億一千九百万円の増加となっております。

購買事業では、生産資材など前年並みとなっておりますが、あるでは前年より三千四百万円増加し、今年度三月末、生活店舗の供給高は二十七億円を見込んでおります。

生乳毎日集荷者の対応については、平成十二年度から本年度にかけて、バルククーラの老朽化及び規模拡大によるバルククーラの容量不足や、集荷時に乳温が下がらないなどの問題を抱え、より良い乳質と生乳集荷

費の負担軽減を図るため、隔日集荷を基準とする容量のバルククーラ導入を進めております。今後の運賃交渉並びに乳質改善を目指しており、またバルククーラ導入の組合員との

格差を無くすことから、毎日集荷者に対し、毎日集荷運賃加算金の導入を実施したいとの説明を致しました。

加算金の導入は、集荷運賃の引き下げにつながることもあり、導入についてはやむ得ないが、毎日集荷

になっているのはいろいろなケースがあり、導入についての検討を充分して欲しいとの意見がありました。

体細胞数規制措置についての説明では、生菌数についてはかなり良くなっていますが、体細胞数についてはまだまだという現状です。酪農は常に乳房炎との闘いであり、その原因を根本的に洗い出し、問題を解決していかなければなりません。中標津町農協内の乳質を向上させ、根室管内はもとより北海道での生乳生産地の地位を確立させ、生乳生産者の安定的継続的な営農を図るためにも、体細胞数五十一万以上の生産者に対し、集荷規制を平成十五年四月一日から農協協対と協議の上、実施したいとの説明を致しました。

意見の中では、規制はやむ得ない部分もあるが、体細胞数は個々の問題であり、原因も分からなく搾乳していることもあるなど、その原因を究明しなければ解決できなく、指導体制の強化・充実を願いたいなどの意見がありました。

師走の懇談会ということで、何かとご多忙中、ご出席いただきありがとうございます。皆さまの貴重な意見を理事会にて検討し、事業に反映させてまいります。

地区別懇談会を終えて

皆様の貴重な意見を検討し、これらの事業に反映させてまいります。

では一億四千九百万円増加の十五億八千七百万円となりました。
金融事業では、貯金残高が昨年より九億九千八百万円の伸びとなり、百三十一億五千万円の実績となっております。この中でも普通貯金については、今年四月に定期性貯金がペイオフ解禁になったことにより、定期貯金から普通貯金に残高が移行されておりますが、さらに顧客数の増加などによって、伸び率が前年対比八・二割の大きな伸びとなっております。このことは、地域の金融機関として信頼を得た結果と思われま

歌と踊りが大好き！ クリクリお目目の男の子！

〔武佐地区 寺嶋淳一・静香さん夫妻 長男 圭太くん（二歳八カ月）〕



二〇〇三年最初の人気者はクリクリお目目の男の子、武佐地区・寺嶋淳一さん宅長男・圭太くんです。

さて、久しぶりのお出掛け先取材（お姉ちゃんを通う保育所のクリスマス会）となった当日、保育所の玄関をそっと開けて「こんにちは」の一声に少々緊張顔の圭太くんでしたが、すぐにご機嫌で取材に応じてくれました。

普段の圭太くんは、パパ達がお仕事をしている間は、お姉ちゃんと二人でお留守番をするお利口さん。いつも一緒にいるからなのかお姉ちゃんが大好きで、悪戯をして怒られても、お姉ちゃんにくっついて遊んでいるんだって。そんな圭太くんはお姉ちゃんの保育所の送り迎えに、まるで自分が通っているかの様に、我先にと保育所へ乗り込んで、少し年上のお友達と一緒に遊んだり、早く保育所に通いたくしょうがないんだって。それから、歌と踊りが得意らしく、お母さんといっしょにや、しまじろうのビデオを見ては歌ったり踊ったり。最近、氷川清の「ズンドコ節」がテレビで流れると、曲に合わせて「ズン！ズン！」って楽しそうに歌っているんだって。この日も、お遊戯を発表するお姉ちゃん達に即席で混ざって、大張り切りで楽しそうに踊っていました。将来はダンサーかしら？（笑）

それから、作業機械（特にユンボ）が大好きで、普段お家ではユンボの

乗り物に乗って遊んだり、パパ達が運転する車に同乗していても、作業機械を見つけると指をさしては大喜びなんだとか。ほんとに好きなのね！

そんな圭太くんも、ちょっぴり臆病な一面もあったりと、この日登場したサンタさんに少しだけビビっていました。ママ曰く、臆病なのに物を壊す時の潔さは？（笑）

さて、圭太くんの将来について期待することはママに尋ねると、「多くは望まない！期待をかけすぎるとプレッシャーに負けてもかわいそうだし：元気に育ってくればそれでいいかな」と話してくれました。

愛情一杯注がれて、すくすくと育っている圭太くん！君のそのクリクリした純粋な目をしっかりと見開き、元気に、そして正しい事をしっかりと見極められる、そんな大人になってね！ファイト！

わが家の
人気者

実績発表大会を通して活発な活動を実感。

●全道JA青年部大会 青年部副部長 西垣 努

第五十一回全道JA青年部大会が、十二月五日、六日グリーンホテル札幌を会場に開催されました。

今回は、当青年部から五人が参加して、内三人は初めての参加でした。地区大会の主張発表で、俵橋支部の中林君が、頑張ってくれましたが、惜しくも次点となり、根室地区からはJA標津青年部の安達永補君が選ばれました。大変堂々としていて、根室地区の青年部らしい発表でした。他地域の発表者も大変すばらしく、

今回出席をした中林君も、真剣に聞き入るなどして、次回は大いに期待ができると思います。

その後、実績発表大会などが行われ、モニターに映像が映らないなどのトラブルに見まわりましたが、そんなことなどものともしない発表で、普段の活発な活動が大変よくわかりました。そして記念講演では、作家の谷村志穂氏のお話を聞き一日目が終了しました。翌日は朝から分科会など忙しい始まりとなりましたが、



たくさんの人から活発な意見が出され、少々時間が足りないように思いましたが、今回初めて参加した部員にとっては大変よい経験になったことでしょう。参加された部員のみなさん大変お疲れさまでした。



牛の観察・管理が大事。

青年部調査・広報委員会
中川 将

去る十一月二十五日に青年部調査・広報委員会主催による視察を武佐地区・山本牧場のロボット搾乳と俣落地区・藤田牧場のバイオオガス（近代酪農）を視察しました。

まず始めにロボット搾乳を、コーンズエーजीの担当者の説明を聞きながら、実際搾乳している所を見ることができました。牛も搾乳してほしいらしく、順番待ちしていました。乳量など全てパソコンに入力され、事務所で牛を把握できます。山本さんいわく「大事なことは、ロボット

よりフリーストール牛の観察・管理」だそうです。

次に訪れた藤田さんのバイオオガスは、すごい一言でした。ここでもコーンズエーजीの担当者の説明を聞いて、完熟堆肥になるまでの行程を聞きました。まだ、電気を稼働していなく、完熟堆肥を草地に還元する事により堆肥のコストを抑えるそうです。

今回、参加した部員は少なかったように感じられましたが、今後は多くの部員の参加を願いたいと思います。



す。視察をさせていただいた山本さん、藤田さんありがとうございました。





今回の研修メンバー 農場にて

今回、根室管内営農担当者のニュー
ジーランド農業視察研修が実施され、
組合長始め役職員のご厚志により参加
する機会を与えていただきました。本
誌を借りてお礼申し上げますと共に、
報告させていただきます。

国内需要より 海外輸出を目指す政策。

ニュージーランド農業視察研修を終えて

宮本 博司 主任 課長 農部 営農

日程は十一月五日から十四日まで
の十日間でした。

ニュージーランドの概要は面積二
千七百五十万ヘクタール（日本の約四分の三）、
人口三百八十八万人（日本の三割）、
農地一千六百五十万ヘクタール、酪農戸数
約一万四千戸、乳牛頭数三百六十八
万頭で国内産業では酪農が圧倒的優
位を占め、国内需要より海外輸出を
目指した政策がとられています。

●主な視察地と内容

初めにLIC (Livestock
Improvement)を訪れ、説明を受け
ました。

LICは一九〇九年に後代検定を
行う組織として創設された会社組織
で、ニュージーランドのほとんどの
酪農家が会員となり、家畜改良、個
体識別、乳検を主な事業としていて、
農業情報の提供、新技術の普及啓蒙
及び経営指導なども行っており、農
協的な存在となっています。

ニュージーランドの酪農家だけが
株主になることができ、現在一万
三千五百人の組合員（株主・農場主）
により構成され、全国三十六グル
ープ六百八十五人の代表者で、職員は
約二千人（正職員五百人、パート一
千五百人）の組織でした。

家畜改良事業では農場から毎年三
八十頭、生後四カ月の初生トクを農
家から買取り、十カ月から精液採取
を開始し、五年間の後代検定を経て
五割の牛を選定し、その後、遺伝獲

得率、悪性遺伝子など追跡調査をし、
更に二割をプレミアムサイアーとして
認証し頒布します。品種はホルスタ
イン、ジャージー、ホルスタインと
ジャージーのF1、ブラウンスイス、
エアシャー、ガンジーと多岐に亘
っており、特に日本との相違点とし
ては、ホルスタインとジャージーの
F1が含まれていることであり、こ
れは異系交配雑種遺伝学による交雑
種の利点を利用するという、考え方
に基づいているようです。その結果、
飼養乳牛の品種割合は、ホルスタ
イン五六割、ジャージー一五割、ホ
ルスタインとジャージーのF1が二一
割、その他が八割となっています。

近年、交雑種の比率が多くを占め
る傾向にありましたが、最近ではジャ
ージーに移行しつつあるようです。繁
殖自体は季節分娩が基本であり、二
カ月間かけての人工授精後、本交に
よる補完的な授精を行っており、改
良の速度は鈍いと感じられました。
牛体サイズも小さい傾向にあるが、
これは放牧主体ということで最低限
の身体維持を考慮したもので、平均
産次四・七産を実現しており、生産
性・耐久性を重視した改良が進んで
いるとのことでありました。改良の
目標は乳固形分総量を如何に高める
かであり、一頭あたりの乳量という
概念が無く、質問も理解しがたいよ
うでありました。また、収益率を最
優先としているため、冬期間の草の
再生力によることと無駄な機械を排

除し、補助飼料を求めず、季節繁殖でありました。

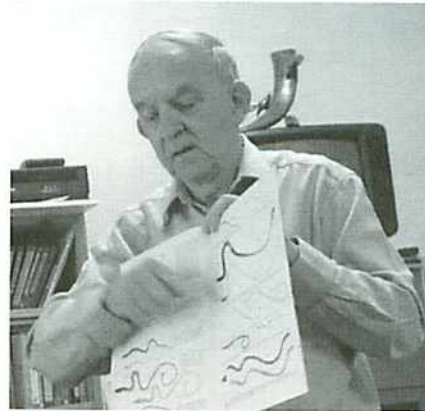
個体識別事業はコンピュータによる一元管理が実現しており、九八割の牛が登録、八六割が後代検定登録されており、二千万頭のデータ登録がされています。耳標については五種類ほどあり、金具の耳標や育成時には小型の耳標を装着し、経産時には大型の耳標をするなど、複数装着する工夫が見られました。

乳検事業（テストリンク）については、自家検定が大半（約七割）を占めており、その検定回数もランダムで年一回検定が四割、年二回が一割、三回が五割、四回が六八割、五回以上が一割とされており、その正確性および利用性については疑問が残りましたが、牛乳分析室には最新の検定ロボットを複数設置し、作業の効率化が図られていました。

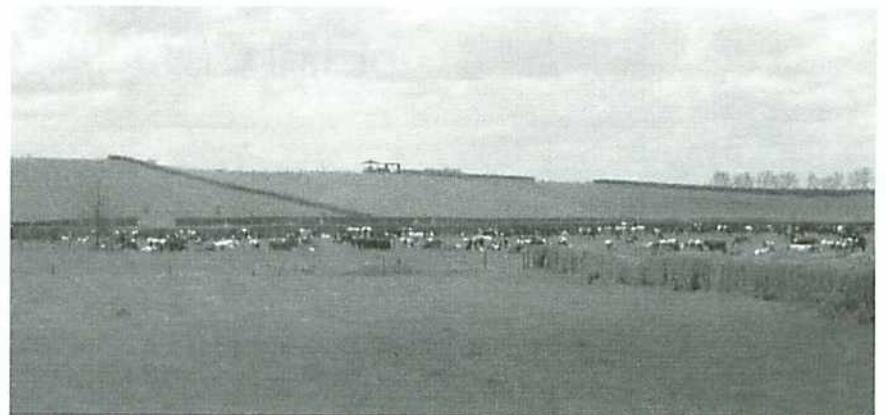
生乳の受入基準はメーカーにより基準は異なりますが、体細胞のペナルティーは、バルク乳で四十万個以上あるとペナルティーが課せられるようで、その額は乳量に係わらず一回目で約二万円、二回目で約四万円らしく、ここで賦課するわけではなく、それはメーカーとの問題であり、関知しない模様でした。この検査の年利用料は約十二万円前後となっているようです。

二日目からは酪農コンサルタント・ボーンジョーンズ氏の講義を含めながら、農場視察などを行いました。

ボーンジョーンズ氏の経歴：一九三一年南アフリカ生まれ。一九五三年南アフリカで十八頭の牧場経営。一九五四年二十三歳でニュージーランドへ単身移民、十カ月間四牧場において放牧技術を習得する。一九五五年ハミルトン郊外に二十五頭の乳牛にて四十軒牧場経営。一九五九年明



ボーンジョーンズ氏がミミズについて話している



ボーンジョーンズ氏が元オーナーをしていた農場の放牧風景

渠排水グレンテッカーを開発し、地域にも普及を図り生産性を急速に上げ、更に林地二十軒も開墾し、ベスト・ファーマーに選ばれる（これが今後のコンサルタントの基礎となっている）乳牛四十五頭。一九六六年九十頭に増頭、三十五歳でシェアミルカー制度導入、一九六七年当初の牧場を売却。牧場を整備しつつ売買をくり返し、現在は、農業コンサルタントのほか、農業博覧会などのマネージャー・貸ビル業をしている。

以下の内容についてはボーンジョ

●草地のレクチャーによるものです。

ボーンジョーンズ氏は、草地の維持管理には、ミミズの必要性を述べている。

ミミズに糞尿を食べさせることにより、糞尿の発酵が促進され、本来の肥料養分は、充分確保されることになる。このことは、化学肥料による公害抑制と、肥料費の削減ともなる良い方法である。

肥料については、商売のための売

込みを鶏呑みにして施用しており、この点は日本、NZとも同じ問題を抱えている。堆肥を活用すれば化学肥料は不要で、肥料費をかけないで済ませることが出来る。

草地管理には、排水を完全にすることと、土壌分析により草の分析を行い、良好な養分を持つ牧草が採れる土をつくるのが大切である。

●牛の飼養管理と改良

乳牛の飼養管理は、北海道と気象条件が違うため畜舎の設備はなく、搾乳施設があるのみである。乳牛は通年放牧体型を取っており、濃厚飼料は給与していない。したがって、一頭当りの年間乳量は、四千詰程度と低い能力となっている。

管理の徹底している牧草であれば、濃厚飼料同様の養分が含まれており、補助飼料は基本的に必要ないが、気候により早生が悪いときは、エネルギー不足を生ずる傾向にあるので、大麦、コーン、メイズを給与している。

乳牛は体重が大きいだけで収益性があるとは言えない。ボーン氏は体重が大きくなり四肢が弱くなり、体重を支えられなくては困るので、体重を増やさずに牛乳を生産する牛の改良を奨めている。

（次号につづく。次号は農場視察をした内容と、シェアミルカー制度について報告させていただきます。）



十二月十三日、寿宴を会場に青年部の反省会が行われました。佐々木部長の挨拶と乾杯で盛大に

笑い声が飛び交う楽しい一時を過ぎました。●青年部反省会 レクリエーション委員会 中林 誠司



始まり、全部員参加とはなりませんでしたが、JA職員の協力もあり、終始笑い声が飛び交う中、レクリエーション委員会による余興が行われ、とても充実した一時だったのではないだろうか。今年度も残り少なくなりましたが、全部員参加型の青年部になることを期待したいと思います。皆様お疲れさまでした。

苦戦しましたが、2日間で約380頭の除角をしました。

青年部俣落支部 藤田 誠



俣落支部では十二月三、四日の二日間、牛の除角を行いました。青年部員とOBの方々も参加してもらい、二班にわかれて行いました。朝九時に鷺見健牧場に集まり、牛を一本もくしでつかまえることから始まったのですが、なかなかつかま

られなかったり、もくしのかけ方がおかしかったりと、みな苦戦していました。二日間で二班あわせて約三百八十頭以上の除角を、事故なく終えることができました。

12月の組合日誌

- 2日 地区別懇談会(俣落・第二俣落)
- 3日 第3回青年部レクリエーション委員会
- 4日 地区別懇談会(中標津・当幌・開陽)
ルーキーズカレッジ研修会
- 6日 和牛振興会役員会
馬事振興同志会役員会
- 11日 ルーキーズカレッジ研修会
- 16日 女性部第3回役員支部長会議
女性部50周年記念誌編さん委員会
- 17日 てん菜会議
- 18日 農民連盟役員会
- 20日 第10回青年部役員会
第2回畑作組織整備検討委員会
- 26日 女性部華道教室



4泊5日

四国周遊の旅

■出発日/平成15年11月上旬

■旅行代金/ 大人お一人様概算

178,000円



ニュージーランド 9日間の旅 **8泊9日**

■出発日/平成17年1月上旬

■旅行代金/ 大人お一人様概算

408,000円

■編集後記

組合員皆様におかれましては、新年をご家族お揃いでお過ごしのことと思います。

昨年は、当農協において現役参事の不幸、農業を取り巻く情勢では食肉偽装事件が多発するなどショックなことが起こりました。

新年を迎え本年が明るい年でありますようお願いにはいたしません。それにはまず健康が一番です。健康管理の重要性を認識し明るい年にしましょう。



懐しき古き一枚の写真



昭和初期～昭和35年頃まで続いた牧草の野積み風景です。この写真はトラックが写っているのをみると、昭和30年代で2、3軒での共同作業による手積みで、作業が一段落したところを撮したものだと思います。あの当時はこのように棒をたてて、それを中心にフォークで草を積み上げていくといった、けっこうきつい仕事でした。

写真提供 藤井 弘美氏